

申請者:西野 和美

論文題目 製品開発における非線形性と市場に蓄積された資源の利用

審査員 楠木建
沼上幹
武石彰

本論文は、申請者が「製品開発における非線形性」とよぶ現象が生成する論理的枠組みを、日本の医薬品業界の観察に基づいて、提示したものである。

この論文の主要な貢献は以下の2点にある。第1に、問題設定の面白さである。申請者は、医薬品業界の製品開発には、経験的に製品開発プロセスの「ねじれ」(開発途中で開発目的の大きな転換がおき、開発すべき製品機能が大きく変わる)や、製品ラインの「飛び」(既存の製品とは機能的に距離のある製品が突然市場化される)という非線形があることに注目する。申請者は、このような一見偶然に見えるような、簡単には説明のつかない現象を説明しようという問題設定は魅力的である。

第2に、市場に蓄積された資源の利用という観点からのもつ理論的な面白さである。企業の外部にある資源を、経済的な対価を払って「購入」するのではなく、学会などで自然とおふんにされるのではなく、当該企業が利用可能な形に「析出」していくことが、製品開発の非線形性と関連しているというのが申請者の主張である。この論点は、理論的に新しい方向を拓くものであると高く評価できる。

この論文の問題点としては、以下の2点がある。第1に、せっかく外部にある資源の「析出」という新しい概念を提出し、そのための企業の基盤能力を論じていながら、その内容、とくに既存の組織学習の理論で取り上げられている「吸収能力」との関係が不明確で、十分に突き詰められているとはいえないこと。第2に、申請者は、企業の外部に蓄積された資源の利用が「非線形性」が生成する(少なくとも全部ではないがひとつの)重要な要因であるとしているが、その論理的なつながりに若干の飛躍があることである。しかし、このような問題点は申請者の構想した論理枠組みの大きな可能性を示唆するものであり、むしろ今後の研究課題を提示していると受け止めることができる。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の著者が一橋大学学位規則第4条第1項の規定に準じた取扱により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。